

かごしま 祭時記

夏の終わりに全員が集まり
団結するのが恒例です

成川神舞保存会メンバー 南方神社権禰直
福ヶ迫 忠 さん(57)

成川南方神社神舞は、7歳から80歳まで約60人の有志で構成される成川神舞保存会を中心に行われており、市の無形民俗文化財に指定されています。8月末頃から練習を始めますが、みんなきちんと集まりますし、決められた日以外に練習する人もいます。準備は大変ですが、みんなが熱心に誇らしげに取り組む姿を見ると苦勞は感じません。いい神舞を奉納し、後世に残せるよう、これからも協力していきたいと思ひます。



↑ 田ノ神の面と五方鬼神舞の面

成川南方神社神舞

指宿市／山川町成川地区

誇りとともに伝承される 荘厳で勇壮な14の神舞

成川南方神社神舞は2日間にわたって行われます。初日は午前8時過ぎから、神主を先頭に厄年の男性が神輿を担ぎ、鬼神に扮した舞い手ら総勢60人で成川地区の家々を渡り歩く「グレ（宮入れ）」が始まります。2日間で百数十軒もの家を回り、家の中や庭で舞を舞いながら祓いや祈願を行います。

2日目の夕方からは14の神舞が奉納されます。指宿市山川町・成川保育園の庭に敷き詰められた32畳の畳の舞台で、7歳の女の子の舞「ネイメ」で厳かに始まり、最後の勇壮な舞「十二人剣」が終わるのは夜。奉納される14の「神舞」は、前日からの「グレ」に始まる「成川南方神社神舞」のクライマックスです。

南方神社に伝わるこの神舞は、約360年前にはすでに行われていたそうです。舞ごとに担当する家が決められており、踊り手を務めることは名誉なこととされていました。保存会メンバーの福ヶ迫忠さんは神舞についてこう語ります。「33ある舞のうち、明治時代

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から指宿市山川町成川に伝わる「成川南方神社神舞」をご紹介します。

までは19残っていました。昭和35年以降しばらく途絶えていましたが、昭和46年に成川青年会が受け継ぎ、後に保存会が発足しました。古老の指導や資料などを元に、今では14の神舞が復元され3年に一度開催しています。

成川南方神社神舞は現在、神社の例大祭（10月28日）前後の休日に開催されますが、かつては氏子や国家に「コトアル時」、つまり災いなどが起きた時に行われていました。

3年ぶりに行われる今年の開催日は、11月2日と3日。14の神舞の奉納は3日です。夏が終わる頃、神事に関わる誇りを胸に人々が結集し、忙しい秋を迎えます。



指宿市

指宿市

指宿市は、平成18年に指宿市、山川町、開聞町が合併して発足した総人口43,342人（平成25年7月1日現在）のまちです。薩摩半島の最南端に位置し、中央部には九州一の大きさを誇る池田湖、南西部には秀峰・開聞岳を有しています。写真は指宿市の「知林の島」。鹿児島湾に浮かぶ無人島で、3月～10月の大潮または中潮の干潮時に長さ約800mの砂州（砂の道）が出現し、歩いて渡ることができます。